令和７年度北杜市総合教育会議　会議録

開催日時　　令和７年１０月６日（月）　午前１０時００分から

開催場所　　北杜市役所　北館３階　大会議室

出 席 者　　委員
小林秀彦　教育長職務代理者、
祝とよ子　教育委員、今井哲郎　教育委員、
鈴木麻美　教育委員、河手由美香　教育委員、
大柴邦彦　市長

説明員（企画部、教育部）
山内一寿　副市長、
川端下正往　企画課長、
加藤寿　教育部長、鷹左右紀　教育総務課長、
堀内洋介　教育指導監、矢ケ崎憲　指導主事、
田丸敬一　生涯学習課長、平井伸一　学校給食課長、
村松佳幸　学術課長、中澤徹也　中央図書館長、
赤岡仁　甲陵中・高等学校事務長、
廣嶋満　教育総務課総務担当リーダー

事務局
三井喜巳　総務部長、津金胤寛　総務課長、
坂本誠　総務課総務担当リーダー、内藤莉彩子 総務課総務担当、
渡辺悠斗　総務課総務担当

議題　　（１）新設市立中学校の学区及び建設場所について
（２）第４次北杜市総合計画について
（３）その他

公開・非公開の別　　公開

傍聴人の人数　　８人

内容

１．開会（午前１０時００分）

２．市長あいさつ

３．協議事項
　地方教育行政の組織及び運営に関する法律第１条の４第３項の規定に基づき会議招集者が市長であるため、市長が協議事項の議長となる。

（議長）
　議題（１）「新設市立中学校の学区及び建設場所について」の説明を求める。

（教育部）
　配布資料より「新設市立中学校の学区及び建設場所について」を説明。

（議長）
　意見、質問を求める。

（委員）
　私たち教育委員会、大人の役割として大切なことは、新しい時代に必要とされる資質をどのように子どもたちに養い、育むかということ。子どもたちに対する教育環境をいかに整えるかということが必要とされており、全国どこでも一流の教育環境を整えることはできると思っている。
　現状の中学校は、常勤の教員が全教科揃っている学校がない。教員の定数が「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律」により、学級規模と生徒数によって教職員の配置がされるべきということが基本になっている。現状では全教科の教員が揃っておらず、入試科目教科だけでなく、他の教科も人間形成の上で非常に大切であるため、専門の教員が非常勤ではいるが、休み時間や放課後等に子どもとの関わりをいかに持つかというところで、全教科の教員を揃えることがプラスになると考える。現状ではこの点が不十分ではないかと考える。
　また、子どもたちが対教師、対大人から学ぶことも多くあるが、多様な人間関係の中で仲間同士の関わりを持つことで学ぶことが子どもの成長にすごく大切であると思う。生徒数が多くなることで、委員会活動や学校行事などで多くの経験ができ、小学校からの固定化された人間関係を脱して、新たな人間関係を作る

ことができると考えられる。学校を集約することで、子どもたちの可能性を導く体制を整えることが必要である。

中学校の再整備検討委員会や小中学生のアンケート、住民説明会で出された２校にする案についてだが、全教科の教員の確保やクラス替えができること、多様な生徒との関わりを持てること、学校間同士が切磋琢磨しお互いを高め合うという環境を作れる点から妥当だと思う。また、歴史的、地理的関係、文化的な繋がりを考えると、学区及び設置場所についてはＡ案が良いと思う。集約することで、子どもたちのアンケートの中にあるとおり、教育活動がより効率化でき、また、教育支援員の方を集中的に配置することで、一斉指導や学校に馴染めない生徒への支援をよりよくできると考えるので、早急に進めていただきたい。

設置場所についてだが、既存の一つの学校の場所に設置するよりも、新しい場所で新しい学校が作られると良いと思っている。もちろん予算的な点もあるが、それぞれの良い点を持ち寄って新しい学校を作ることで、地域住民や子供たちの意欲も出るのではないかと考える。また、鉄道やバスなど複数の交通機関が利用できる場所が好ましい。

その他として、各町に残っている小学校との連携や卒業後の進学先候補となる市内の高校と交流がしやすい場所を条件の一つに入れていただけるとありがたい。学習面、部活動、教員との交流も含めて、子どもたちの交流がたくさんできる機会となれば良いと思う。また、通学時間が長くなる生徒が出てくると思うが、その時間をかけてでも通いたくなる魅力ある学校を作ることが我々の使命だと考える。校舎内外で新たな人間関係を作り、充実感、新しい発見や感動を得られるような学校を構築できれば良いと思う。

（委員）

まず現状として、単級の先生方が１人で出張や急な対応をするため多くの苦労をされている。また、施設がかなり老朽化しており修理の要望が多い。さらに子どもたちは自分の希望する部活動がないために、学区外や韮崎市の学校を希望して入学する生徒がいる。これまで多くの統合に向けた議論を行い様々なご意見をいただいてきたことをもとに、子どもたちに新しい時代を生きる力をつけるために、少しでも早く統合できるようなご決断をいただければと思う。

２校とする案についての地域説明会の際、武川地区で「白州と武川は国道２０号を通じて歴史的交流が今まであった」というお話があり、それは大事な点だと思うため、学区及び設置場所についてはＡ案に賛成。建設場所については、やはり一番課題となっている通学に不安を抱える子どもたちや保護者のことを考え、通学手段として複数の交通機関を選択できる場所が良いと思う。校舎については、新たな場所ということであれば土地の買収等により時間やお金がかかるた

め、今ある公共施設を利用することで、時間的な問題や交通についての問題が勘案され効率的なのではないかと思う。また、本市は遺跡の発掘が多いことからも、新しい場所で工事を始めた際には遺跡の発掘により工事が数年間停滞する可能性があるのではないかとも思っている。

（委員）

これまで11年近く統合の検討が行われ、かなりの論議が尽くされてきている。この間にも子どもたちの数は減少し、今後も減る見込みがある。校舎の建設計画をしてから完成まで、早くても５年ということを考えるとますます子どもが減るため、できるだけ早く子どもたちにより良い教育環境を作っていただきたい。

２校とする案についてだが、やはり武川と白州が歴史的に密接な関係があるということから、学区及び設置場所についてはＡ案が良いと思う。具体的な校舎については、既存の校舎を使うと教室が足りないため増築をしなければならないほか、その学校に吸収合併をされたという印象を受ける。できれば統合エリア４校の子どもたちが集まりやすい場所に新たに建設することが望ましい。

また、通学の問題が大きな不安として保護者や生徒から出ていた。山あいの地形のため、道路の高低差、狭い道やカーブも多いので安全な通学路確保のための道路整備や通学路の点検が必要。スクールバスの利用や自転車、鉄道も通学の手段となるが、全てにおいて安全確保がされていることが大事。その通学の負担を軽減するという意味では、スクールバスの運行を生徒の居住実態に合わせた便数や停留所の設置及びその待機場所の詳細なプランを立てることが、まずは保護者や子どもたちへの安心材料となる。

最後になるが、学校に魅力があることが大事なことで、せっかく新しい校舎を作っても魅力があまりないとがっかりの材料になる。検討を綿密にし、子どもたちがこの学校に来てよかったと思う学校を作っていただきたい。また併せて学習内容についても統合することで子どもたちの学びが深まるものにしていただきたいと思う。２０３１年から中学校の学習指導要領が変わるということも聞いているので、それらの準備も徐々にできることは進めてほしい。

（委員）

人間関係を理由として中学校卒業後の進路選択に悩む子どもたちが多い。どうしても保育園から 1 クラスで過ごしてきた友達と離れることがつらいという思いから、高校も友達と同じ高校に行きたいと思っている。その選択が本人にとって１００％正しい選択ではなく、別の選択もあるかもしれないと思ってしまうこともある。

小学校は町で過ごす、中学校では市を知る、高校で県へ行き、大学は全国に出

るという考え方がある。現状では中学校での市を知るという部分が欠けている。小学校で町を知った後、中学校で市を知り、北杜市で育ったという誇りを持って高校への進学や社会へ出て行ってほしい。そのためには１人１人の心の成長が必要であり１年でも早く統合をしてほしいと思っている。

生徒だけでなく保護者も保育園からの約１２年間、人間関係が固定化されている。良い関係が作れる場合はいいが、お友達がいないということを理由に中学校から市外へ行く児童がいた際には悲しい思いをした。現在は不登校の生徒へのケアが充実しているが、さらなるケアの充実として、元気に登校している児童や生徒、その保護者にも小さな悩みはたくさんあるはずなので、その児童が休み時間や放課後に、職員室などで友達や親御さんに話せないことを先生と話すことができるような環境を１年でも早く作っていただきたい。

（委員）

説明のとおり、これまでの審議の内容については必ずその会議に地域の代表の方が参加されており、地域の総会や役員会の中で共有されてきた。その段階ごとに適切な手続きを取られていることは理解しており、議論は十分尽くされていると考える。２校にする案が市民の大きな声、流れにあるというふうに理解している。

小規模校であっても先生方の業務内容は、大規模校と同じであるため、生徒数が少なくても取り組む行事や仕事が同じだけあり、１人の先生が複数の業務を担当し、出張が同日に重なり苦労をされている。先生方の出張が重なることで、学校に残る先生が少なくなり、子どもたちへの目が行き届くのかという不安を感じ、一定規模の学校が必要であると痛感した。

子どもの発達の段階に応じて様々な経験や体験の広がりが必要であると考える。学校は、違う環境で育ち、違う特性や考えを持った子どもたちが学び、語り合い、１つのことに取り組む体験を公的に確保した学び舎だと考える。その観点からも、小さい頃は地域の体験だが、それが徐々に市、県へと広がり、さらに国、世界レベルへ段階に応じて広がり、多様な環境へ進むことが重要。高校入学後に中学校の規模と比較してしまい萎縮して葛藤を抱える生徒がいる。一方である程度の規模の中学校から入学した生徒からは、様々な体験をしてきたことで物怖じしないで行動できたという声がある。そのようなことを考えると、ある程度の規模で物の見方や体験ができるような中学校の再編が必要。また、新しい学校を作るとなるとやらなければならないことがたくさんある。特に、次期学習指導要領の策定に入るための移行やデジタル教科書の問題、更なる探究活動の取り組みなど、多様な子どもたちに向けてやるべきことがたくさんあるため、なるべく早い段階で進めていただきたい。

学区及び設置場所については、地理的、文化的、歴史的な流れを考えると、A案に賛成。白州と武川の長い間の歴史や伝統、文化を地域の大人と子どもが一体となり学び守ろうとしており、これは１つの大事な文化、伝統、財産だと考えている。建設場所については、既存の学校の拡張工事をしながら子どもたちが生活することは大変困難だと思う。新しい場所に新しい学校を建築した方が子どもたちの新しい生活への移動が安全にスムーズになると考える。通学手段についてだが、中学の時代から様々な社会経験をするという意味から複数の交通機関があると望ましい。また、原っぱ教育の充実を考えた時に、小学校や高校、文化施設、豊かな経験を持つ人材との繋がり等があってほしい。そう考えた時にも、交通インフラが整っていると出て行きやすいし、相手方も来ていただきやすい。

これまで子どもたちの生の声が多く出ているため、新しい学校にはこの声を反映することが十分に可能であると思う。地域の方々も新しい学校に興味関心を持っていることは今後の推進力になる。子どもたちは期待しながらも、不安も大きいため、スクールカウンセラーやソーシャルワーカーと今まで以上に密な連携が取れるよう、予算の確保等をしていただき子どもたちの不安に対応してほしい。また、市単独教員の配置をし、いじめ対策をはじめとするきめ細やかな子どもたちへの対応をすることで子どもたちの声に応える効果に繋がる。子どもたちは地域の人に愛され育っており、必ずや自分たちの経験を大きな力に変えることができると信じているので、新しい学校作りに背中を押して子どもたちを応援したい。

（議長）

皆様方には子どもたちのことを考えてお話をしていただいた。とにかく魅力のある学校作りをするためにも、新設工事は各会議やアンケート結果なども加味し、皆さん方の意見や地域の皆さんの意見をある程度は反映できる形を作れると思っている。２校にする案のうちA案を軸とし、場所や校舎についてもできる限りし新しいものを検討したい。また、土地については公共用地を使うことが様々な面で事業を進めやすいと考えており、地域の歴史についても練って反映させたいと思っている。予算確保は大変だが何とか国の予算をもらえるよう努力をし、本日の意見をまとめ、できる限り早期に子どもたちが安全安心に通える場所で、より良い教育環境の実現のために速やかに再編整備を進めていきたい。

まずは子ども第 1 で考え、様々な経験ができるようになれば地域の発展につながる子どもたちが育つと思っている。皆様方の意見を参考にさせていただいて、早く進めていきたいと考えている。

（議長）

議題（２）「第４次北杜市総合計画について」の説明を求める。

（企画部）
配布資料より「第４次北杜市総合計画について」説明を行う。

（議長）
意見、質問を求める。

（委員）
まず、総合計画の中でも中学校の再編計画については同じ流れに沿っていると改めて感じた。教育委員会として子どもたちの学校教育や社会教育において、北杜市に住む人も一緒に関われる事業をしているが、他の政策も含めて中学校の再編とも関わりながら、市内の子どもたちをはじめ、全ての人が少しでも幸せになれるようにという計画ではないかと感じた。
直接子どもに関わる点では、子どもまんなかの社会の実現や中学校の再編に関わる点が課題であるが、そのような点を少しでも手助けする役割を行政は持っていると思っている。具体的な施策についてはこれに基づいて行っていただけることを願っている。主な内容についても、中学校の再編等で関わっているが、いずれも多様性を認め合うことや誰もが活躍できるまちづくり、市民参加、協働という点が重要である。学校と地域との連携という点で、地域の中の学校の存在というところでの生涯学習の充実や仕事と余暇を楽しむという車の両輪のような形での人生設計ができる希望に満ちた計画であると思う。
生まれてからずっと北杜市で育っている方もいれば、途中から北杜市に来て一緒に生活をしている人もいる。これまで地域の良さや教育の高さなどをお互いに認めながら、さらに向上していく活動は普段からなされているので、これからの１０年間に向けての構想として大変素晴らしいと思う。

（委員）
生まれた時から高齢になるまでの様々な政策を考えていただいていることが伝わる。一番驚いた点としては、市民の幸福度グラフの中で、３０歳から３９歳と６０歳から６４歳の幸福度がとても高いという点である。北杜市が子育てに力を入れていることで子育て世代の方が満足を感じているのではないかということ、６０歳から６４歳は第一線での仕事を退いたが体力に余裕がある方々が地域で働くことや余暇を楽しむことでそのような結果になっているのではないかと思った。反対に気になった点としては、７０歳から７４歳の幸福度が急に低くなる点である。これは高齢になり自分で車を運転して出かけることなどが不

自由になった方々が、もう少し何かを求めているのかもしれないと思った。
　また、次代を担う子どもや若者が巣立ち希望があふれるまち作りに向け、地域ぐるみで保育や子育ての実現という項目があるが、「地域」という視点がすごく大事だと考えている。現在の中学校の統合問題で２校にする案、また設置場所をどこにするかということを審議しているが、それらが決まった後、その学校をどのような学校にするかという点がとても大事で、多くの時間がかかると思っている。それぞれの主張だけでなく、地域の方々が連携、協力していかないと子どもたちが生き生きと学べる中学校にはならないと思うため、政策の「地域が」という点が反映されれば良いと思った。

（委員）
　まず、多様な学びの機会の確保とより良い教育環境の推進という説明の中で、以前は学校教育という限定された中での表現だった点が、学校での教育だけではなく様々なところで学べる機会を確保するというような非常に意味のある言葉があった。
　Well－being 指標の幸福度についてでは、北杜市民がどの程度の幸福度を感じているかを初めて知ったが、全体として高いと思うが年代によってはかなり差があるためその辺りが今後の課題だと思う。
　また、生涯学習については様々な工夫を最近していると思っている。先日、私の地区の自治会で学芸員の方と地域の歴史を学ぶ機会があった。生まれてからずっと育っている地域でありながら意外と知らないこと多くあった。たくさんの地域の方が集まって話を聞き「勉強になった」という感想が多くあり、このような機会は市内多くの地域で取り組んでほしいと感じた。地域の良さは何となく感覚的に分かっているかもしれないが、その歴史的なことや文化的な背景をさらに知ることでより地域への愛着が深まると感じた。そのような経験を通じて北杜市の良さを再発見できることが多々あるので、生涯学習の中ではそのような良さを今後反映させていただければと思った。

（委員）
　まず、本当にお願いしたい点として、子どもたちが輝き希望があふれる生活を送れるために、親が安心できる地域を作ることが必要だと考える。１人で子育てをしている母親はとても多く、本当に頑張っている。あまり祖父母に頼れない母親もいるなかで、地域に集まることができる場所があり、母親を元気にするまちづくりをお願いしたいと思う。そうすることで、子どもたちは自然と考えて社会に出ていけると思う。
　また、生涯を通じたスポーツや文化活動の推進についても力を入れていただ

きたい。スポーツや文化芸術は、本人の一生の趣味にもなる。悩みを抱えた時に、その趣味が自分の支えになると思う。Well－being の幸福度において、２０歳から２９歳の方たちの幸福度が少ないことは寂しいが、そのような時に趣味やスポーツといった好きなことが自分を支えてくれると思う。家族みんなが地域で楽しめるスポーツや芸術があると幸福度がさらに上がると思う。

（委員）

私は、心が動くことや感動することが学びたいという気持ちの根源にあると思い、それが Well－being の幸福度にも繋がると思っている。そのような点から、将来に渡って自分がやりたいことを選んで楽しむことができる北杜市であってほしいし、そのやりたいことが北杜市にあり、それを将来に渡って楽しむ環境が北杜市にあるということが Well－being に繋がる教育に関わる部分だと思う。

特に教育面では、その一つが原っぱ教育の充実であると思う。北杜市の自然環境や豊かな人材環境を生かし、歴史や文化財の保存継承の学びに将来にわたり関わっていくためには、家庭との連携や地域との連携といった学校教育の外に向かって学びが続けられなければならないと考える。そのためには、教育委員会と市長部局の緊密な連携が非常に重要であり、教育委員会の教育大綱と市の総合計画がそれぞれ別個ではなく、総合計画の中に教育大綱が位置づけられるように一本化をしていただくことが、教育委員会と市長部局との緊密連携の象徴であると思っている。また、子どもが幸せになるための第１の環境は、大人が幸せであるということである。そういう意味では、産業や観光、経済面や福祉面も教育に大きな影響を与えることがあるので、市長部局と教育委員会の連携が非常に重要だと思っているので、このような形で進めていただければありがたいと考えている。

（議長）

大変貴重なご意見をいただいた。教育委員会と執行部がしっかり連携を取ってこれからも進めていきたいと思っている。今の段階での総合計画の基本構想は、これが目標であり取り組みの概要で、現在は総合計画の審議会でこれをご審議いただいているところ。本年１１月を目途に素案をとりまとめ、議会報告やパブリックコメント等の実施を予定している。そして策定した第４次総合計画については、改めて総合教育教会議でまたご説明をしっかりとさせていただき、決定をさせていただく段取りを考えている。今日いただいた貴重なご意見は、総合計画の中に取り入れ、市民の皆さんが幸せに、そして楽しく過ごせるような総合計画を作り、市民のために職員一同しっかりと頑張るので、これからも皆様方の

ご指導ご鞭撻をよろしくお願いしたい。

（議長）
議題（３）「その他について」全体に意見の確認をする。

（委員・説明員）
特になし。

（議長）
以上で協議事項を終了とする。

（事務局）
以上で北杜市総合教育会議を終了する。

４．閉会
（午前１１時４５分）